

## 教育相談を生かした特殊学級の経営

八 木 文 昌 \*

### I 主題設定の理由

特殊学級入級生は、自分の能力が低いために非常に劣等感を持っており、校内外を問わず適応力の不足が見られる。また卒業後の進路に大変不安を感じている。行動面を見ると、批判力の不足のために問題行動を起こしたり、逆に問題行動に巻き込まれたりすることが多い。これらの問題点の解消をねらい教育相談を個人の指導と学級経営に取り入れ、好ましい人間関係の育成と問題に積極的に取り組む態度の育成をしたいと考えた。

### II 生徒及び学級の実態

#### 1 生徒のプロフィール

3年生の男子A・B・Cの3名と、7月末入級の1年生男子Dの計4名

**A**、3年男子。IQ88。IQはそれほど低くないが、小学校当時より短気で登校拒否など問題行動が多く、特殊学級と普通学級を何回も往復した。中学校では終始特殊学級生である。根気がなく気が向かないと作業学習でも途中で投げ出したりすることが多かったが、最近はなくなった。母の連れ子で現在の養父の実子と思っているが、この事実が判明したときのことが心配である。また劣等意識が強く自己けんおに落ち入ることがある。

**B**、3年男子。IQ77。学力はAより劣るが、器用で作業学習を喜ぶ。批判力、判断力が劣るため自分勝手な行動をとることがあり、また悪事の相棒にされることがある。母親に精神的な欠陥があるため子供の世話を十分できない。そのため父親だけでは細かい生活面まで指導が及ばず、全く放任しているようで、その結果Bは自分勝手な独善的な決定をしたり、他人を無視した行動をとるようになったと思われる。

**C**、3年男子。IQ54。能力、学力は劣り言語による発表力を欠くため自分の方から進んで発表しうとしない。性格は温順で人がよく悪い方へ走ることはないが、行動はのろく、作業能率はあがらない。しかし大変に根気がよく、人のいやがるような仕事でも進んでやる。

**D**、1年男子。IQ86。普通学級では学業不振、更に集団に適応できないため7月末特殊学級入級。以後性格は明るくなり、当学級にとけこんでいるし、親学級へ行っても元気よく発言できるようになったとのことである。作業学習には興味を示し、不器用なため作業速度は遅いが、ていねいに正確な仕事をする。

\* 東頸城郡安塚町立安塚中学校

## 2 学級の実態

学級内では全員がほがらかで友好的であるが、劣等感を持っているためか他学級の生徒には閉鎖的で警戒心が強く廊下より見られることをきらい、特に下級生に対しては神経質なくらい気を使っている。一方ものごとや行動に対する批判力、判断力の不足から問題行動に巻き込まれたり、利用されたりすることが時おりある。また自分の力に自信がないため、進路の決定など重要なことになるとう不安にかられ迷うことが多い。これが更に彼らの心に劣等意識を育てることになると思われる。

## III 学級経営の計画

### 1 学級話し合い活動の重視

学級生は4人なので、グループカウンセリングには都合がよく1人の問題点について個人個人が自分の問題として話し合うことが可能である。

#### (1) 作業学習

作品を苦勞して作り完成した喜びと満足感にひたらせることによって自己の力に自信をもたせ根気強さと次の作業へのエネルギーをたくわえさせる。更にこのことは積極性と計画性をも育てることになる。しばしの休息時、ほっとしたときに出る生徒の話しかけや疑問を話題にして日ごろもっている問題の解消をはかる。また仕事をとおし他の人の立場も考慮してやる思いやりも育てたい。

#### (2) 清掃時の活用

教師みずから清掃に参加しながら、その要領や、やり方に合理的でないもののあることを理解させながら計画的な能率のあがる方法を考えさせて行くなかで生活指導をするとともに「先生、あのね・・・」「そうか、そんなとき・・・」と気軽に心の中の不安、疑問を話し合って行けるふん囲気をつくる。

#### (3) 合格祝いの会

珠算検定を受験し合格した者を祝ってやる会を開き、作業学習の利益金でなごやかに茶会をやる。運営は彼らに自主的にやらせることにより、計画性や手落ちのないちみつな性質を育てるとともに社会に出てからそのような場で困らないでよいように少しでも適応性をつけてやりたい。また珠算検定と言う社会的に認められた級を取ることににより自信をつけさせ劣等感の解消をさせたい。

#### (4) 給食時とその後の時間

人間は食べるとき心がなごむので、折々のニュースを材料として話し合いながら社会を見る目を育て批判力を高めさせてやりたい。

#### (5) 呼び出し相談とチャンス相談

呼び出し相談はなるべくやりたくないが、プライベートな問題や、問題行動を起した場合、落ち着いたふん囲気のなかで十分相談できるようにしたうえで実施している。また廊下であれ、休み時間であれ、チャンスを逃がさず生徒の不安や心配の解消ができるように相手になってやる。彼等が気軽に話したことが受けられるこちらの態度をつくっておく必要がある。



## 2 表現力育成の場を活用する

### (1) 言語発表

週1時間言語発表の時間をとって言葉による意志発表の学習をしているが、その材料として自分の今思っていること、考えていることを取りあげ、みんなの問題として話し合い問題の解決をする。

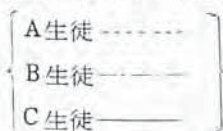
### (2) 日記指導

表現力が十分にないため、心の内面をえぐるようなものが出てこないが、不安などが表現されている場合ただちに相談にのり解決の援助をする。

## IV 学級経営の過程

### 1 諸検査の結果

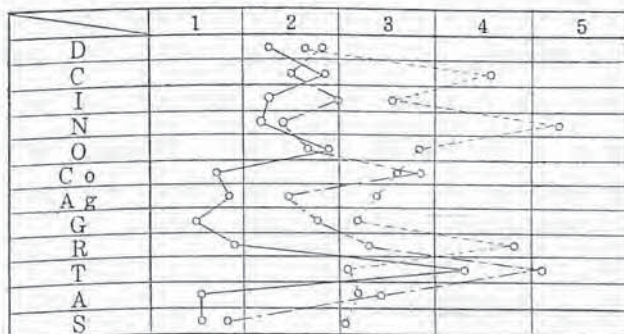
#### (1) 矢田部, ギルフォード性格検査から(昭48・7)



Aは情緒不安定(N, C)を示し、衝動的で内省的でない傾向(R)がある。昨年の一学期ころは衝動的行動をして困らせたのは、やはりこれだったのかと考えさせられた。昨年の9月になって、静かに話させたとき、それまで気づいていなかった自分の短気な性格を最後になって「少し、おれ、短気かな。」と一言口に出してから徐々にこの性格はよくなりつつあった。でもまだ根にあるものを見つけたような気がした。これはいったいどう言うことなのだろう。

Bは内省的でない傾向(T)がはっきりとプロフィール上に出てきた。悪友に誘惑される可能性が内在していると言うことで、今後気づかせ、よい方向にもっていきたいものだ。

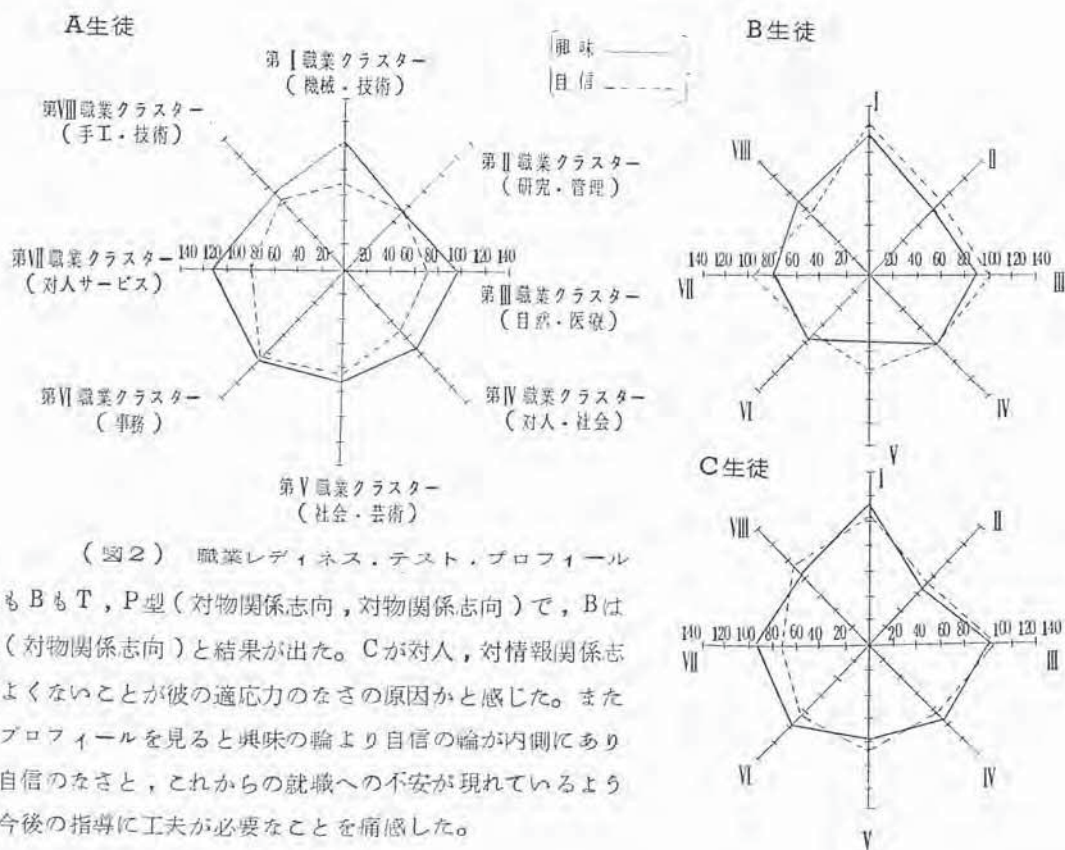
Cは非主導的傾向(A・S)非活動的傾向(Ag・G・Co)が極端に出てきている。積極的な性格に変容させて行きたいものだ。



(図1) Y-G性格検査プロフィール比較

#### (2) 職業レディネステスト

7月16日, 学校のすぐ下の職業安定所へ行って職業レディネステストを受ける。進路について, まだ具体的なまとまりを見ていないが, 一応当特殊学級の3年生3名が職業安定所へ出かけた。まだ深刻な問題としてとらえていなかった彼らも, 安定所に入ると不安にかられ, 何か落ち着かないようだ。安定所の職員の話の聞いているうちに, いくらか安定感をとりもどし, レディネステストに熱心に取り組み始めた。次のグラフが, その結果である。



(図2) 職業レディネス・テスト・プロフィール

AもBもT, P型(対物関係志向, 対物関係志向)で, BはT型(対物関係志向)と結果が出た。Cが対人, 対情報関係志向がよいことが彼の適応力のなさの原因かと感じた。またAのプロフィールを見ると興味の輪より自信の輪が内側にあり彼の自信のなさ, これからの就職への不安が現れているようで, 今後の指導に工夫が必要なことを痛感した。

## 2 指導の記録より

- (1) 7月20日, 1年男子D 成績不振, 学級内では不適応を起こし孤立しているとのことで学級担任と入級勧誘に出かける。両親の同意が簡単に得られ入級決定。
- (2) バイク分解事件

8月27日, 第2学期始業式, 3年親学級の男子N, O, Bの三名が盗難届の出ている無ナンバーバイクを分解してしまったのことを親学級担任より連絡を受ける。事件を起こす可能性が性格診断で出ていたので注意していたのだが, 現実起きてしまい, 夏休みとは言え注意不足を反省すると共に, 性格診断の予想が的中したこと自信のようなものが入りまじって複雑な感じである。

8月28日, N, OとBの三人を親学級担任と呼んで事情聴取をする。7月4日N, Oの2名が, バイク小屋より持ち出し, 少しかまったら後に元の場所に戻すことを2, 3回くり返した後夏休みに入り, Bの家の物置き小屋で分解して部品を山分けしてしまったと言う。8月16日に警察に呼ばれ事情聴取がなされているのに両者とも連絡してもらえなかったのが何か無視されたようでものたりなく淋しい感じがする。

8月29日, Bを呼びカウンセリングする。(その中の一部)

T君が今度のことで思っていること, 考えていること, 何でもよいから話してみてくれないか。



C<sub>1</sub>—…まず、呼ばれた夜、あすは警察に行くということになったので、夜どんなことを話したらよいか、こわくなってろくに眠られなかった。警察に行くと、きのう見えた巡査がいました。そこで事実を述べたと思っています。……その後、今後バイクが通ると、(ウン)、何かおどされるのではないかと心配がでてきて、自分としては帰るのが心配でした。その後警察からは呼ばれなかったが、電話が鳴るたびに警察に呼ばれるのではないかと心配で……(ウン)ふだんなら、いつも自分が電話に出るのですが、電話に出られなくなりました。

T—電話に出るのがおそろしいという感じがしてきたのだね。

C<sub>2</sub>—はあ、学校でも、先生たちにありのまま話して、もう決ったというか、結論がついたようなものですが、今、自分が思うには……こんなことをして……こういう立場になってみると、2度と警察の世話になりたくないし……(ウン)……まじめな人間で生きて行きたいと思っていますし……この事件当時のことは、もう、くよくよししないで、就職のことを考えて行きたいと思います。

T—そうね。いつまでもくよくよししてもしようがないな。だからといって、それを忘れてしまったら、どうなるだろうね。

C<sub>3</sub>—また、そうなるとおきるかもしれない。忘れたということではなくて、そういうできごとがあったということは忘れないようにして……それをもとにして……そういう誘いにのったり、そういう行動を起こしたりしないでおこうと思う。

このカウンセリングの言葉を掘り下げると、自分の心の動揺や、心の動き、決心といったものがくみとれる。まず、無思慮に人の誘いに乗り、誤った行動をした後、その誤りに気づいたとき、「電話が来るたびに警察に呼ばれるのではないかと心配で、ふだんならいつも自分が電話にでるのですが、電話に出られなくなりました。」という表現となっておそろしさが出てきているし、また高校生におどかされるのではないかと不安となつて出ている。反省のようすは「そんなことをして、こういう立場になってみると2度と警察の世話になりたくないし、まじめ人間で生きて行きたいと思っていますし……」というようにはっきりと表れている。

9月23日 Bを呼んでカウンセリングをする。事件の痛手より立ちなおり、進路のことに真剣にとり組んでいるので安心する。

今回の事件は、何とかBを事件に巻き込ませないでおけなかったものであろうかと、自分の力不足を残念に思う。批判力、判断力のなさ、道徳的な心のなさのおそろしさを感じながらも、この事件をとおして教育相談の何たるか、その入口に一步ふみこむことができたような気がする。そしてBが、その傷の痛みを克服し、自分の進むべき方向を模索するようになったことは、何よりであったと思う。彼にとっても人生の貴重な経験として今後の生活に生かされて行くことだろう。

### (3) 職場見学

職安の職員の勧めで職場見学を実施する。Aは工場も、会ってくださった社長も大変に気に入ったようであるが、自動車の板金修理をやりたいと言うBは自分が持っていたイメージと工場がちがいが過ぎて気に入らないようで、さっそくカウンセリングする。

T—きのう職場見学に行つて来たあと何か考えていることがあるんじゃないかと思うので、そのこ



とについて話してみてください。

C—うんと、ああいう仕事、自分としては好きなんだけれども会社がああいうふうに大きいと何か自信もなくなって、一生続けて行く自信がなくなりました。で、自分としては、もっと小さな会社で腕はそんなに上がらなくてもいいんだけど、自分でもってその所がいいと思ったら一生続けて行く自信があるような所で……うんと……就職したいと思っています。

T—ああそう。小さい所ね。小さい所がいいですか。どういうことなんだろうね。

C—うんと、今まで考えていたよりも、会社が大きくて自分が一生続けていく自信がなくなったということです。それに会社の寮がなくて、どっかの家に下宿して通うということは、僕は反対です。(沈黙1分)

T—気に入らん所をまとめてみると。

C—寮がないということ。それにもしてできれば社長もいっしょになって働けばもっとうまくいくんだがなあと思う。

T—どこの会社も、A君の行こうという会社の社長のように工員といっしょに働くんだろうか。

C—社長がみんなをしているということはないけれども、近くのU自動車屋のように、人数が少ないせいもあるかも知れないけれど、ああいうふうに社長も、もっと手伝ったり、わからないとき教えてくれる所がいいと思います。もっとちがう所があったら紹介してもらいたいと思っています。

T—大きい所は困ると思うんだけど、どういうことなの。

C—(沈黙)何かみんなについて行く自信がないという。きのうそういう感じを受けた。(沈黙1分)うんと、ただこわれた所をなおしたり、とりかえたり、そういう所が好きなんであって、あんな大きな車を作ったりするのは……自分の改造した大きい自動車か町で走っているのを見ればあれ作ったんだと思うけども、自分としては作るというよりも、こわしたやつをたいてなおしたり、それに、みがいたり、塗装をかけたり、そういうようなやつ、自分に向いていると思う。

就職したら、一生続けて行かなければならないという気持は大切にしなければならぬが、大きい工場に気をのまれていたといった感じで、苦しくとも、なんとかやって行こうとする強い気概と自信をつけさせたい。「腕はあがらなくてもいいんだけど。」なんて言っているのが気になる。「社長も働けば……」という言葉からは、社長の任務とか仕事を理解していないにおいを感じる。また何回か、カウンセリングして気持ちの変容をさせる必要があるようだ。

## V おわりに

昨年よりの教育相談をやって来た間にAは大きな変容をしたと思う。「おれ短気かな。」と最後に自分の心をのぞくように言ってからAの変容が始まった。しかしBのバイク事件、続いて最近になって起きたBとDの衝突。この問題のしこりもまだ解消していない。就職もまた同様だ。Cは進学したいと言うが、これもまた気持ちの上でも学力の上でもどうしようもない問題がある。そうこうしている間にDは親学級といっしょにやる体育の時間に蒸発してしまった。何が原因なのだろうか。親学級での彼の適応はどうもうまくいっていないようだ。やらなければならぬことがあり過ぎる。教育相談はよりよい生き方を求めさせるために常に継続されなければならないと強く感ずる。特に特殊学級生のように能力的にも、性格的にも何か欠陥のある彼らに、自分の生き方を気づかせることは大変なことである。だからこそ教育相談の考えを中心にして学級の運営を続けていきたい。彼らの学力の向上も必要なことではあるが、それ以上に社会に出てから、それぞれの職場に適応して行ける人間に育てて行きたいと考えている。